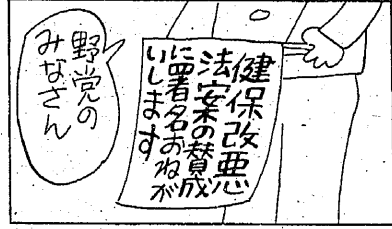


# あほだら

艾岡ゆ友衛



明治公園での五万人集会



## 健保法廃案へ総行動

### 緊迫する情勢—上旬がヤマ場

八四国民春闘共闘会議は六月十二日から十五日まで、健保改悪阻止・社会保障の後退に反対する総行動を行ないましたが、炭労もこのたたかいに積極的に参加しました。

六月十三日午後一時三十分、日比谷野外音楽堂は各単産から三千八百人が参加し、中央総決起集会が雨の中で開かれました。

主催者を代表して黒川総評議長は「健保は中曽根首相の政治生命と密着した問題となっており、重大な時期をむかえている。教育、国鉄、電々、トモホク配備反対などのたたかいとともに廃案に向けて頑張ろう」とあいさつしました。

続いて社会、公明、共産各党の衆議院社会労働委員の各氏が、明日から国会が再開される見通しだが、明日の社労委は開かせない。健保改悪の廃案をめざしてがんばるの決意表明があり、全建総連が集会アピールを提案し、全員がシュプレヒコールを繰返し、国会請願デモを行いました。

六月十四日午前十時十五分。衆議院議員面会所に集合し、要請行動に入りました。

中曽根内閣は七月七日という大幅な会期延長を行ない、健保改悪を進めようとしています。都道府県議会議決は三十、六議案と、実に全都道府県の七十七パーセントにも達しています。

また、全地方自治体三千三百二十五のうち、千六百六十二の自治体が行動に移りました。各単産から十五の自治体、千六百六十二の自治体の参加が多く、炭労の参加者は明治公園で開かれる「教育臨調」反対、教育を国民の手に六・一四中対、五万人集会に参加しました。

翌日は参議院議員面会所に集合し、前日と同様に各議員に対して要請行動に入りました。

健保改悪をめぐる全体の動きとしては、中曽根のサミット帰国後の再開国会がいよいよにのるか、社労委での健保改悪法案の審議をどうするか、六月末から七月十日前後の攻防が最大のヤマ場となり、中央だけでなく、地元での運動をいっしょに広げることが重要になっています。(村中利行・記)

患者の不安はつるばかり

健保改悪反対の決議が行われ、反対署名も一千万人という数に達し、健保改悪反対の運動は全国的な運動へと広がっています。

私たちが働く職場では合理化、労働強化の進行にともない労災・職業病が拡大し、医者にかかる時間さえもないという実態です。

また、環境破壊、食品公害による国民の健康破壊は深刻なものになっており、「七・九に一人が病気になる」という戦後最悪の健康破壊状態にあることが、国民健康調査でも明らかになっています。

この面から予防・保健の強化、医療制度の充実こそ現在も必要であり、健保法充足以来堅持されてきた「本人十割給付」を切り崩し、さらに病人をつくり出すような改悪法案など、どうして認めることはできません。

各議員に手渡す要請文を読みあげ行動に移りました。各単産から



## 保安

昨年二月、三池製作所で下請けの女性労働者が殺されました。そして、本年六月十七日に港務所で下請けの労働者が試運転中のベルト・フライヤーに巻き込まれて死亡するという重大災害がありました。

坑外の職場では、保安問題には弱いとか、討議にならないなどというところを耳にします。それは炭労の保安点検月間の取り組み、三池独自の保安闘争の取り組みのときにも坑外職場から

ら具体的な要求が出ないというところだと思えます。

たしかに坑内と比べれば職場の環境は大きな違いがあるだろうし、負傷者の数、負傷の程度にしても大幅な違いがあります。また、三十八年の三川鉄大災害、

この理由の一つには、無休業、微傷は微傷に含まない、という鉱山保安監督局の統計上の変更があったことによるものだと思います。

しかし、坑外だからといって重大災害がないわけではありませぬ。現に一年半余の間に三作と港務で二人の労働者が罹災しては、六月までに六人となりま

す。

三作の災害にしろ、港務所の災害にしろ、罹災者は職場で一番弱い立場にある下請け、孫請けの労働者です。

坑外の職場では、保安問題は弱いとか、討議にならないなどというところを耳にします。それは炭労の保安点検月間の取り組み、三池独自の保安闘争の取り組みのときにも坑外職場から

### 保安は坑内だけか

西山正勝

本所保安委員 西山正勝

この理由の一つには、無休業、微傷は微傷に含まない、という鉱山保安監督局の統計上の変更があったことによるものだと思います。

しかし、坑外だからといって重大災害がないわけではありませぬ。現に一年半余の間に三作と港務で二人の労働者が罹災しては、六月までに六人となりま

私たちが働く者の生命と健康、職場で働く仲間たちの命と健康をいかに守るという点で、保安は坑内だけの問題ではないことをはっきりと認識して、点検・改善要求闘争に立ちあがらなければなりません。



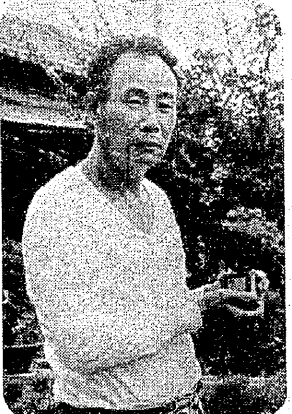
### なまはら

十二月分

荒岡 勇さん

社、二十四年四月十日、三川鉱に移り掘進工となる。昭和三十一年十二月、三池闘争時のデモチ上げ事件で解雇され、法廷闘争へ。緊要労働者としてなれない仕事をしながらたかいたかに取り組み。四十二年、眼を病み解雇入院。苦勞の連続だった。

▼四十六年一月、十年ぶりに裁判で勝利し就職したが、会社は現場復帰をさせずに緑ヶ丘人事に配役させた。以来今日まで続けている。定年まで、あと



荒岡さんは、荒尾市緑ヶ丘町53棟で奥さんのハル子さんと2人暮らし。長女直子さんは神奈川、二女メイ子さんは千葉に。

第2表 各産業における労働災害発生状況(58年度)

業種	度数率	強度率
林業	17.99	1.15
鉱業	16.43	2.59
建設業	2.71	0.55
製造業	2.12	0.26
運輸、通信業	4.73	0.38
サービス業	11.39	0.39
平均	2.98	0.32
うち石炭鉱業	23.34	2.96

(注) ①「度数率」は、稼働延100万時間当り死傷者数。  
②「強度率」については、第1表では3.08となっているが、これは調査対象事業所の相違(第1表は、従業員数100名以上の事業所を対象としたもの)によるものである。

第1表 炭鉱における災害発生状況

年次	災者数				災害率	
	死亡	重傷	軽傷	計	頻度率	強度率
51年	29	1,935	396	2,360	233	3.67
52年	58	1,896	232	2,186	222	6.52
53年	27	1,669	205	1,901	196	3.44
54年	45	1,407	131	1,583	174	5.21
55年	22	1,212	83	1,317	149	3.19
56年	124	1,025	101	1,250	143	13.29
57年	24	941	38	1,003	118	3.08
58年	17	635	41	693	86	

(注) 「頻度率」は、稼働延100万人当り災害率である。

## 資料 炭鉱労働者の実態 依然多発する炭鉱災害

最近における炭鉱災害の発生状況については、稼働延一〇〇万人当たり災害率でみると、第一表のように、五十一年の二・三三から、五十八年には八・六八へと大幅に減少している。強度率(稼働延一、〇〇〇時間当たり労働損失日数)についても、大体四・〇～三・〇の間におさまっている。もっとも、五十二年、五十四年および五十六年には、それぞれ大災害があり、多

このように災害率の低下にもかかわらず、他産業と比較すると、炭鉱は依然災害多発産業の最右翼に位置しており、度数率で見ると全産業平均の約八倍、強度率では九・三倍という高率を示している(第2表)。